

関西大学幼稚園

2015 年度学校評価報告書



2016 年 3 月

目 次

2015 年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

1 本園の概要	1
2 今年度の教育活動状況	1
3 評価の実施にあたって	2
4 評価の分析	
(1) 教育の基本方針について	3
(2) 教育内容について	5
(3) 安全教育について	17
(4) 園児募集について	19
5 学校関係者評価委員会からの評価結果	21
6 「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書	23

【参考資料】

資料 1	2015 年度 関西大学幼稚園	実施対象者別アンケート結果比較一覧表
資料 2	2015 年度 関西大学幼稚園	学年別保護者アンケート結果一覧表
資料 3	2015 年度 関西大学幼稚園	保護者対象アンケート

1 本園の概要

関西大学幼稚園は、教育基本法を十分に尊重し、すべての園児が各自の人間性や能力を全面的に開花させていくことを目的として昭和26年に開設され、創立65年目を迎えている。

本園は、「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」の3本の柱を教育の基本方針とし、様々な環境や境遇に育った子どもたちが、幼稚園の新しい環境と集団生活に適応できるように教育活動を実践している。「いきいきと自己表現ができ、積極的にいろいろなことに取り組むことのできる子どもにすること」、「みんなで協同して仕事をしたり、遊んだりすることのできる子どもにすること」、「困難に出会った時、前向きに解決していける豊かな感性と生活の知恵をもつ子どもにすること」を子どもの育ちのなかで見逃すことなく働きかけながら、子どもが子どもらしい感性を発揮し、心豊かに人間らしく育つことを、時代を越えて守っていかねなければならない、と考えている。

また、本園は自然環境に恵まれ、園舎前面に運動場があり、園庭には楠、桜、いちょう、せんだん、くぬぎ、かえで、つつじ、つばき、きんもくせいのほか、裏山には松、かし等の樹木に囲まれている。また、ざくろ、みかん、柿、ジューンベリー、ブルーベリー、木イチゴ等の実のなる木や草花の存在は、子どもたちに四季折々の自然を身近に感じさせる楽しみとなり、情操教育の一助となっている。

このような環境の中で、教育学や心理学及びその他の諸科学の進歩に即しながら、子どもたちの感覚を豊かにすることに重点を置きつつ、認識、情操、能力、健全な心と体の発達をはかるための保育を開設以来積み重ねている。

一方、本園を運営する学校法人関西大学は、「長期ビジョン KU Vision2008-2017 具現化のための長期行動計画」を踏まえて、その実現のために、中期行動計画を策定し実施している。本園においても、この枠組みの中で基本方針と中期行動計画の連関を意識しながら教育活動を実践している。

2 今年度の教育活動状況

本年度の中期行動計画で掲げた「大学との連携活動の推進」に関しては、関西大学大学院心理学研究科の「児童臨床心理学実習」の一環として本園で短期実習を実施することが定着している。また、関西大学国際部と連携し、普段の保育時間内に外国人留学生を招き園児との交流を深める取組も定着しており、今年度は5月から2月の間に計21回の機会を持ち、延べ51名の外国人留学生が参加している。外国の言葉を耳にし、一緒に遊び、昼食を共にすることですぐに打ち解け、機会を重ねることで園児から留学生の国の言葉で挨拶をする等、園児の外国への興味と関心が自然と深まっている。更に今年度は、「芸術教育」に着目し、芸術を身近に体感することを目的と

した「楽しいつどい」の取組を実施した。集いは、関西大学交響楽団やグリークラブ等の協力を得て、大変有意義なものとなった。

「関西大学初等部との連携活動」においては、初等部の1年生の教員と懇談会を持った。懇談会では、本園から内部進学した児童の現状報告を受け、幼児教育と初等教育の円滑な接続についての意見交換を行い、今後の保育内容等に活用できるものとなった。また、2月の公開授業に全教員で参加し、初等部の特色ある教育法への理解を深めることができています。

「子育て支援策の策定」においては、「希望（のぞみ）クラス」と並行して実施している預かり保育「なないろ」は、本園の保護者の就労状況から予想通り利用頻度はあまり高いものではないが、2月より午前保育後（水曜日）の「なないろ」を実施したところ、参加人数は予想以上に高く、好評を得ている。これを受けて、長期休暇中の「なないろ」実施に向けて検討をしている。また、生後4か月から1歳児の親子を対象として「おいで、おいで」を実施した。

3 評価の実施にあたって

本園の自己点検・評価（学校評価）は、複数の項目に分類し、3年かけて一巡する取組にすることを、学校法人関西大学自己点検・評価委員会（併設校部門委員会）において承認されている。これを受けて、本園では下表のように評価活動の年次計画をまとめた。

2015年度	2016年度	2017年度
教育方針	食育	保護者への働きかけ
教育内容		小学校（初等部）との関連
安全教育	年間行事	子育て支援
園児募集		施設・設備

なお、2015年度の本園における主な自己点検・評価活動は以下のとおりである。

日付	議題	内容
5月29日(金)	今年度の評価の課題について	・各担当者を決定
6月24日(水)	*年間行事アンケートについて	「行事や四季の取組について」のアンケート項目の検討・作成
6月26日(金)	今年度学校評価アンケートについて	・アンケート項目の検討・作成
6月26日(金) 6月29日(月) 6月30日(火)	年少組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート *年間行事アンケート
7月8日(水) 7月9日(木)	年中組クラス懇談会にてアンケート実施	*年間行事アンケート
7月15日(水)	年長組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート *年間行事アンケート
7月27日(月)	2学期に実施するアンケートについて	アンケートの作成
9月7日(月) 9月8日(火)	年少組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート *年間行事アンケート

日付	議題	内容
9月11日(金)		
9月17日(木) 9月18日(金)	年中組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート
9月24日(木)	年長組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート
11月6日(金) 11月10日(火)	年中組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート *年間行事アンケート
11月11日(水) 11月12日(木) 11月16日(月)	年少組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート *年間行事アンケート
11月26日(木) 11月27日(金)	年長組クラス懇談会にてアンケート実施	・「今年度学校評価」のアンケート *年間行事アンケート
12月14日(月)	「今年度学校評価」のアンケート実施 *年間行事アンケートの実施	・締め切り 12月19日(土)
12月21日(月)	「今年度学校評価」保護者用アンケートの集計 *年間行事アンケートの集計・分析	
12月24日(木)	「今年度学校評価」保護者用アンケートの分析 教員用アンケートについて	教員用アンケート内容の検討・作成
2月23日(火)	教員用アンケートの実施	
2月25日(木)	教員用アンケート集計・分析	
2月26日(金)	*年間行事アンケートについて	・3学期の「行事や四季の取組について」のアンケート項目の最終確認と決定
3月中旬	*年間行事アンケートの実施	
3月14日(火)	学校関係者評価委員会開催	

本園の学校評価活動の特徴として、2010年度から保護者にも協力を仰ぎ、保護者と教員との間で本園の教育についての意識が共有できているかを検証している。今年度は保護者へのアンケート調査をクラス懇談会直後に実施することで、保護者の意見を記述してもらいやすいようにし、回収率の平均は96.2%であった。

また、学校評価活動の取組が今年度より3巡目となり、その2年目に実施予定の「年間行事」等について(*印)のアンケート調査を2014年度から実施し、アンケート結果の蓄積を行っている。保護者の記憶が鮮明な時期を逃さないために学期ごとにアンケートを実施し、その結果を次年度に活かせるものと考えた。

4 評価の分析

(1) 教育の基本方針について

【現状の説明】

本園では家庭環境や子どもの育ちに目を向け、幼児期の発達や特性を理解した上で、3本の柱としている教育の基本方針のもと、豊かな人間形成を目指している。

「自主性の陶冶」においては、集団生活の中で依存から自立への意識を持たせ、自分でできる喜びを感じさせながら、いろいろな物事に積極的に取り組む姿勢を育てることを大切にしている。

「協同性の涵養」においては、言葉で自分の思いを相手に伝えることと、自分と同じように相手にも思いがあることに気付かせていくことが必要であると考え。そのために、喜びや驚き等の感情を共有できる取組を提供し指導している。また、経験の中では必ずしも自分の思うように事が運ばないことが多いため、子どもは意見を出し、話し合うことでコミュニケーション力を習得し、自分の気持ちに折り合いをつけ、気持ちを調整することを学んでいけるような保育を目指している。

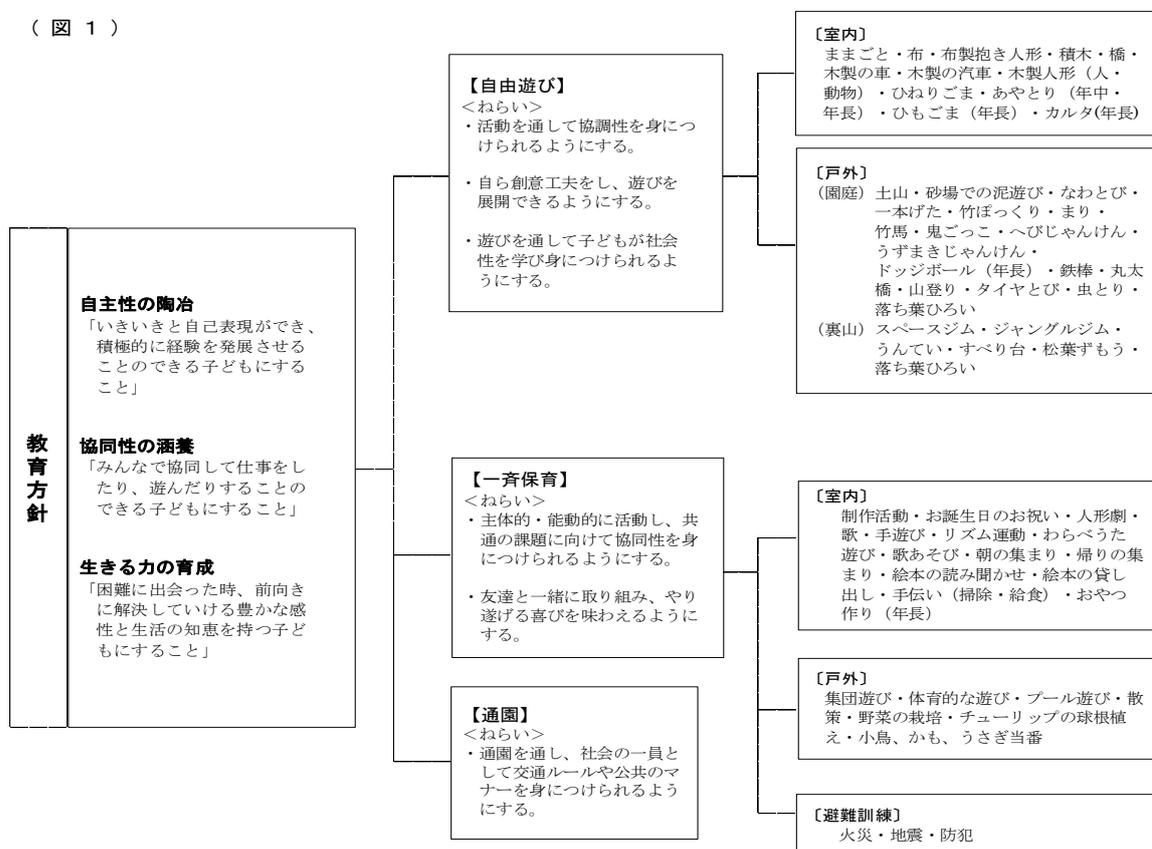
「生きる力の育成」については、子どもが自分がかげがえのない大切な存在であると感じられる自己肯定感を育てることが大切であると考え。その自己肯定感を素に、物事に前向きに取り組む意欲を育て、やり遂げることで達成感を味あわせ、自信へと繋げていくように導いている。

図1のとおり、基本方針はすべての教育内容に通じるものであり、3つの基本方針のもと、教員は一人ひとりの子どもが自信を持って園生活を送れるよう子どもの特性を見極め、主体的に活動できる教育内容の実践に取り組んでいる。

教員は子どもとの良い信頼関係のもと、特性に応じた適切な指導を行えるように心がけており、毎週「研究会」を開き、①教育内容 ②子どもの育ちの現状 ③教員の姿勢（心がけていること）の点を中心に教育に関する研究を行っている。また、各保育室が子どもにとってふさわしい環境に設定されているか、毎年4月の進級式・入園式以前に全教員で点検することを継続して行っている。通園においては、今年度より通園補助員にも意見を聞き教員との共通理解を深めている。

保護者に対しては、クラス担任の教員が中心となり月1回開催する“クラス懇談会”や“園だより”（年間約30号発行），“学年だより”（年間約25号発行），“通園だより”（年間約7号発行），“食育だより”（年間約6号発行）を通して、子どもの様子や教育方針に関することを伝えている。保護者への発行物等は、過去の自己点検・評価活動により改善した結果である。

（図1）



【点検・評価と今後の取組】

2012年度の学校評価で外部評価委員の方に「教育の基本方針」の理解は、保護者でBが56.9%と多い。更にAが増えるよう努力する必要がある（Aは35.6%。）というご意見を頂戴した。これを受けて月1回開催する「クラス懇談会」は保護者に直接話を聞いてもらえる場であるので、基本方針の3本の柱を子どもの姿や活動内容につなげて話をする努力をした。また、園からのお便り類の内容を検討し、発行回数を増やす等保護者に興味を持って読んでもらえるよう工夫をした。その結果、今回のアンケート結果ではAの「理解している」が61.0%、（AB合わせると98.9%）となり、基本方針の理解が浸透してきたことがわかる。

今後も、基本方針の理解が浸透し続けるような活動を継続していくこととする。

（2）教育内容について

① 室内での自由遊びにおいて

【現状の説明】

“自由遊び”という言葉は、教員の関わりや働きかけが少なく、子どもを好き勝手に遊ばせているように思われるかもしれないが、幼児期にとっての遊びは、周囲の環境や人との関りの中で多くのことを学ぶ場である。子どもが意欲を持って積極的に周囲の環境と関わりながら、遊びに没頭し、考え工夫し、想像力、創造力を膨らませて遊ぶことや、友だちとの関わりで体験したことは生きる力に繋がっていくものと考えているので、自由遊びの時間を大事にしている。教員は子どもが興味関心を示し、意欲的に遊びに取り組めるように年齢や発達段階、季節に応じた遊具を用意し、子どもの動線や遊びの展開を想像し遊具の配置を考えている。また、子どもが遊びのイメージを豊かにして遊べるように、想像力や創造力をかりたてられるものとして、できるだけ未完成なものや素朴なものを揃えている。そして、子どもが心ゆくまで遊びに夢中になって遊ぶ時間を十分確保するために、午前中の時間を室内遊びにあてている。

年少児は初めての集団生活であり、たくさん子どもと関わる経験も初めてなので、教員との信頼関係を築き、教員と楽しく関わりながら遊びの楽しさや遊びのルールを伝え、子ども同士の関係を繋げていくように働きかけている。年中児は担任やクラス集団は変わるが、一年園生活を過ごした経験から友だちと遊ぶ楽しさを感じ、一緒に遊びを展開していけるようになってくる。年長児になると今までの経験から、主体的かつ意欲的に友だちと一緒に遊びを工夫し、展開していけるようになってくる。

教員は遊びの状況を見守りながら、一人ひとりの子どもの個性を理解し、遊びを通して子ども同士の関係や子どもがどんな遊びに興味や関心を持ち、遊びが楽しく展開されているのかを把握している。教員は自由遊びを通して子どもが成長している姿を保護者に懇談会で伝え、本園が自由遊びを重視していることを理解してもらえるように努めている。

【点検・評価と今後の取組】

アンケート調査において「入園してから子どもの遊びに変化が見られますか。」という設問に対し、93.9%の保護者が、入園してから子どもの遊びに変化が見られると回答している。その内容としては「布や積み木、日用品で上手に見立てて遊ぶようになった。」「大人の想像では考えられないユニークな遊びをするようになった」「一つのおもちゃで集中して遊び、工夫できるようになった」

「遊ぶ時に色々と考えながら遊ぶ」等の記述回答を得ている。これらのことから、園だけでなく家庭でも子どもは身近な物を工夫して遊んでいることがわかり、想像力、創造力、考える力が育まれていることがわかる。

今後も現状に満足せず、室内の自由遊びがより園児一人ひとりの個性を育めるよう、創意工夫を教員同士で知恵を出し合いながら展開していきたい。

② 戸外での自由遊びにおいて

【現状の説明】

開放的な空間で子どもが自ら遊びたい遊びを見つけて自主的に行動し、友だちと関わって遊びながら人としての関わりを学ぶことをねらいとしている。集団生活に慣れていない年少児はクラス単位で安心して遊べるように裏山や年少児専用の砂場で遊んでいる。2学期になると裏山では年少組は2クラス一緒に遊ぶようにし、友だちとの関わりが広がるようにしている。広い園庭ではクラスで集団遊びや散策をする。年中・年長児は午後から園庭で、クラスや学年の枠を越えて自由に遊べるようにしている。教員は子どもが自ら遊ぶ体験を通して、豊かな自然環境の中、感性を育み、友だちと関わることで協調性や社会性を身に付けられるように働きかけている。そして、一人ひとりの子どもの様子を把握し、安全に遊べるように子どもに指導している。

園庭では縄跳び、竹ぽっくり、一本下駄、竹馬、まり等の遊びや丸太橋、鉄棒、山登り、タイヤとび等の固定遊具を使って遊べるようにし、経験を重ねることでバランス感覚を養い、自分の体をコントロールできるようにしている。縄跳びはリズム運動でも取り入れており、園庭でも自主的に取り組めるようにしている。また、クラスで取り組んだ集団遊び（へびじゃんけん・うずまきじゃんけん）を園庭で子どもが自主的に遊ぶ姿が見られる。年長児は2学期後半頃になると運動会で取り組んだりレーやドッジボールを子どもたちだけで遊ぶようになる。

裏山には、スペースジム、ジャングルジム、すべり台、うんてい等の固定遊具を設置している。固定遊具では順番を守ることをルールを伝え安全に遊べるよう教員は子どもの姿に合わせて指導している。また、松葉や木の実など自然と関わって遊ぶ楽しさを伝えることで、周りの自然にも興味や関心が持てるよう働きかけている。

【点検・評価と今後の取組】

アンケート調査において「楽しく戸外遊びをしている様子がお子さんを通して感じられますか。」という設問に対し、「感じられる。」は96.4%であった。このことから子どもを介して保護者に外遊びを楽しんでいることが伝わっていることがわかる。年少児は2クラスで遊ぶことでクラス以外の友だちの存在を知り、仲良く遊ぶ姿が見られるようになる。年中・年長児はクラス、学年の枠を越えて一緒に遊ぶ姿が見られ、年長児が年中児に遊びを教えたり、片付けを一緒に手伝っている姿も見られる。

土山・砂場では子ども同士が協力し、工夫して遊ぶ姿が見られ、友だちと一つの物を一緒に作りあげる集中力、創造力、想像力、協調性が養われていることがわかる。

園内の木の実や落ち葉、花びらを遊びに使う等、自然環境と親しんで遊んでいることがわかる。また、アンケート調査において「入園してからご家庭においてお子さんの遊びに変化が見られますか。」の設問に対する記述回答において自然の物（植物、木や虫）への興味が増した」「どんぐりや

落ち葉を拾うようになった」「公園に行くと植物や生き物に目が行くようになった」などが挙げられており、自然への興味や関心が養われていることがわかる。

今後も遊具等の安全面を確保しながら、戸外での自由遊びを充実させていくこととする。

③ 室内での一斉保育において

ア 朝の集まり・帰りの集まり

【現状の説明】

朝の集まり・帰りの集まりは教員や友だちの話を聞く姿勢を身に付けること、自分の体験したことや感じたこと等を話すことをねらいとしている。

朝の集まりは、クラス全員が輪になって座り、担任教員は中央のテーブルに置いたろうそくに火をつけ、その灯りの中で朝の挨拶を始める。クラスみんなが手を繋ぎ、一人ひとりの子どもの名前を歌うように呼んでいく。子どもは自分の名前を呼ばれることで、クラスの一員であることを自覚していく。教員は子どもが友だちの話を聞き、自分の思ったことや感じたことを言葉で表現できるように、身近なことを話題に上げ、話しやすい雰囲気を作っている。また、話を最後まで聞いてから自分の意見を言うように指導している。時には話題に沿った季節の歌を歌い、手遊びを楽しむ等みんなで楽しさを共有できるようにしている。また、自然や季節の変化等に気づかせる話題や、安全教育、食育等に興味や関心を持たせ一緒に考える時間になっている。

帰りの集まりは、帰りの支度をした後、朝と同様輪になって椅子に座り、降園前の時間を過ごす。教員は幼稚園で遊んだ余韻を感じながら子どもたちが明日の登園を楽しみにできるようにしている。そして友だちと手を繋いで帰りの歌を歌って降園の時間を迎える。教員は突然の出来事にも対応できるよう、降園前は余裕を持った時間配分を心がけている。

【点検・評価と今後の取組】

年少児は、毎日の繰り返しの中で、教員の話に興味や関心を持って耳を傾けられるようになり、自分の話を聞いて欲しいという気持ちが表れるようになってきている。また、友だちとの関わりが増えクラスの一員である自覚や仲間意識が芽生え、教員だけではなく友だちの話も少しずつ聞けるようになってきている。年中・年長児においては、これまでの積み重ねにより長い時間でも落ち着いて話が聞けるようになってきている。また、園生活の様々な経験を通して友だちの話に自分の体験を重ねて聞くことができ、友だちの気持ちに共感できるようになっている。

全園児が集まる集会の場において、教員がマイクを使わずに進行できているのは子どもが話を聞こうとする姿勢が身に付いているからだ考える。

教員の話し方や内容については、子どもに伝えたいことや感じさせたいことが伝わるような話ができているか、わかりやすく話ができているか等について子どもの姿から自己点検している。また、話し方や内容については学年会議や研究保育の反省会で点検し、今後、各自研鑽に努めることとする。

イ お誕生日のお祝い

【現状の説明】

本園では、「お誕生会」として月単位で誕生児のお祝いをすることはせず、子どもが生まれた日

を大切に考え、誕生日当日（あるいはできるだけ近い日）にお祝いをしている。お祝いの日には誕生児の保護者に来て頂きお祝いの席に座ってもらい、クラスの子どもと一緒にお祝いのひとときを持っている。学年によってお祝いの持ち方は異なるが、保護者に参加してもらうことで生まれてきた日の様子やその時の家族の気持ち等を保護者から聞きつつ、或いは教員が伝えることで、その子どもがこの世に生まれてきたことを喜び、祝福されて生まれてきたことを知るひとときをしたいと考えている。また、子どもが家族の存在にも目を向け、感謝の気持ちも持てるようなお祝いの取組をしている。

誕生日プレゼントは、年少児は心を込めて拍手をプレゼントとし、年中・年長児については誕生児のために制作した物をプレゼントしている。年中児には後述する制作活動における基本的な経験（のり、はさみの使い方や折り紙の折り方等）を活かしたプレゼントを一斉指導により制作している。年長児は年中組での経験をもとに、自分で作りたいものを考えて、工夫しながら制作が進められるよう教員が関わり制作できるようにしている。また、担任は冠を、園長は誕生日カードを手作りし、お祝いの言葉と共に贈っている。

【点検・評価と今後の取組】

クラスで誕生日のお祝いを重ねていくことで、自分の誕生日だけでなく、友だちや家族の誕生日のお祝いを楽しみにする気持ちが持てるようになっていく。

年中児はプレゼント作りを通して、のり・はさみの使い方を習得し、折り紙の経験も積み重ねることで作る喜びを感じ、毎月のプレゼント作りを楽しみにするようになっていく。年長児は年中時での経験をもとに誕生児のことを思い、工夫を凝らした物を考えて作り、それを友だちに教え合う姿が見られる。

今後もひとり一人の誕生日のお祝いを大事に積み重ねていくこととする。

ウ リズム運動

【現状の説明】

埼玉県にあるさくら・さくらんぼ保育園創設者の故斉藤公子氏が、現代の子どもに不足している運動量を保証し、運動機能を発達させるために考案されたリズム運動を基本に、週に1～2回（クラス単独・混合）取り組んでいる。2009年度の学校評価において課題とした「年中・年長混合で取り組む時期」等については、検討した結果以下のように改め、翌年度より実施している。

学年	開始時期	取組方	回数
年長組	4月 9月	単独・年中組と混合 年少組と混合・年中組と混合	週2回
年中組	4月	単独・年長組と混合	週2回
年少組	9月	単独もしくは年長組と混合	週1回

教員は、ピアノを弾きながら子どもの動きを見て、運動能力の発達度を把握し指導している。また、リズム運動の取組を集団作りの一環とし、友だちを励まし認める関係が育つように働きかけている。保護者にはクラス懇談会やリズム参観等において、家庭や地域での生活環境を踏まえた上で、積極的に体を動かす重要性和必要性を伝えている。年中児の保護者に対しては、6月に行うリズム参観で子どもの姿を見てもらい、リズム運動に対する理解を深めてもらえるようにしている。年長

児の保護者には、リズム運動を積み重ねることで、運動面だけでなく心身共に成長している姿を見てもらうため、3月にリズム参観を設けている。

【点検・評価と今後の取組】

4月から年中児と年長児が混合で取り組むことは、進級して間もない時期であり、多少落ち着かない状態での活動になることを懸念した。しかし、年長児は憧れの年長組になった喜びと共に、年中児と一緒にリズム運動をすることで意欲的に取り組む姿が見られ、年中児は年長児の動きをよく見て模倣しようとしており、双方に好ましい取組の結果となった。また、1クラス単独で行うリズム運動では、一人ひとりの子どもの様子が把握しやすく、その子にあった声かけや働きかけができています。

今年度より年少組についても、年長組と混合でリズム運動に取り組むようにした。年少児は年長児の動きをまねて教員と一緒に楽しく体を動かす姿が見られ、年長児は嬉しそうに体を動かす年少児に優しいまなざしを向けており、異年齢の取組ならではの関わりを楽しみリズム運動を行うことができています。

2クラス混合での保育終了後には、これまで同様教員間で具体的な動きのポイントや個々の育ちに合わせた指導方法を確認し合うことで、共通認識を更に深めていけるようにする。

アンケート調査において、95.5%の子どもはリズム運動を楽しんでいることが確認でき、96.8%の保護者はリズム運動が普段の生活で不足している運動量を補うための取組であることを「はぐくみ」や子どもの姿を通して感じていることがわかった。

今後も現状日満足せず、保護者の理解を得ながら子どもが楽しく、意欲的に取り組めるリズム運動を継続していくこととする。

エ 歌遊び・わらべうた遊び・歌

【現状の説明】

歌遊び・わらべうた遊びは、年齢や季節に合わせたものを取り入れ、教員や友だちと繰り返し遊ぶ経験を積み重ねている。歌に合わせて体や手を心地よく動かし、みんなで一緒に楽しい気持ちを共有することを大事にしている。遊びを積み重ねることで子ども同士でも楽しめるようになり、自由遊びの中で自然と集まり、遊びを展開している。

歌は子どもの表現のひとつであると考え、日々の園生活の中に取り入れ、季節やその場面に応じた歌を教員の歌声と共に歌うことで、歌う楽しみや喜びを感じることをねらいとしている。行事や集会等たくさん的人数で歌う時にはピアノに合わせているが、普段はピアノ伴奏をせず、周りの声を聴いて合わせることを意識させている。子どもは教員の歌声に合わせてるので、教員は常にしっかりした音程とリズムで歌えるよう心がけ、学年で確認している。

【点検・評価と今後の取組】

歌遊び・わらべうた遊びでは子ども同士で遊びを展開することで、子ども同士がつながりを持ち、集団作りを担っている。教員や友だちの声に耳を傾けて歌うことで、自然と人の声に合わせてようになり、怒鳴るような声で無理に声を出す子どもがほとんどいない。集会などピアノ伴奏で歌う時は、友だちの声に合わせて歌う経験からピアノにも合わせる事ができ、きれいに歌うことができています。

今後も子どもが歌う楽しさや喜びを感じられる指導を積み重ねていく。

オ 制作活動

【現状の説明】

制作活動では、取り組む過程や子どもの気持ちを大事にし、自分の経験やイメージしたことを表現する楽しさ、また自分の手で作る喜びを味わえるようにしている。

全園児の取組としては、行事に関する制作（七夕飾り・鬼のお面・お雛様）、ぬらし絵、絵画であるが、その他に各学年で発達段階に応じた制作活動を行っている。

年少時においては、蜜蝋粘土、油粘土での制作や自由画制作、また、季節に応じた制作活動（紅葉・園内で収穫した柿・みかんの制作等）を行っている。

年中時においては、主に折り紙や切り紙等で作る誕生児へのプレゼント作り・季節に合わせて取り組むこいのぼり作り・凧・雪だるまの貼り絵・卒園児と新入園児へのプレゼント作り等がある。絵画については主に経験画を描いている。また、年中児になって初めてクレヨン、のり、ハサミといった道具類を個人持ちとするため、それぞれの使い方や片付け方を指導している。

年長時においては、年中児での制作経験を活かして自分で考えて作る誕生児へのプレゼント作り・大きい紙を使って折るかぶと・こいのぼり作り・身近な生き物の折り紙（バッタ、せみ、うさぎ等）・三つ編みで作るなわとび・指編みでマフラー作りを経験する。絵画については年中児同様、経験画を描いている。どの学年も、出来上がった作品や結果を評価するのではなく、出来上がった時の達成感が意欲や自信につながるよう指導している。また、年長児ならではの取組（こいのぼり作り・縄跳び作り・マフラー作り）については、年少児や年中児が年長児への憧れの気持ちや興味を持ち、年長組になったら作ってみたいという制作活動への意欲に繋がるようにしている。

【点検・評価と今後の取組】

2012年度の学校評価の反省を踏まえ、今年度は年少児の保護者にぬらし絵を取り入れている意図や子どもがどのようにぬらし絵に取り組んでいるのかを知っていただくために、実際に保護者に体験していただく機会を持った。これによりアンケート調査において「ぬらし絵は色の世界を楽しむ経験であることはよくご存じだと思いますが、ご理解いただいていますか」の設問に対し、「そう思う」の回答が2012年度は36.7%だったが今年度は66.8%と前回は上回る結果となった。特に年少組保護者の回答が31.8%から73.9%と大きな変化が見られることから、実際に保護者が体験することで理解が深まっていることがわかる。今後もクラス懇談会等で保護者が実際にぬらし絵を体験し、子どもと同じように色の世界を楽しむ機会を持ちたいと考える。

また、制作活動の見直しを教員全員で行い、学年別に月ごとに取り組む活動のねらいと内容を一覧表にまとめた。それにより、教員ひとりひとりが制作活動の目的や重要なポイントについて理解を深め取り組ませることができるようになった。しかし、一覧表を過信せず、今後も子どもの発達段階に見合った制作活動に取り組めるよう常に内容を見直し確認しながら取り組んでいきたい。

カ 絵本の読み聞かせ・人形劇

【現状の説明】

絵本や人形劇は話を聞こうとする意欲や態度、お話の世界に入り込む想像力や感じたことを言葉

で表現する力を育てることをねらいとしている。絵本も人形劇も教員の語り方やしぐさ等が子どもに大きな影響を与えると考え、抑揚をつけすぎず自然な表現の仕方を心がけるようにしている。

年少組では身近に感じられる生活感あふれるものや繰り返しの面白さが感じられるもの、年中組では物語性のある絵本や昔話等想像力に働きかけられるもの、年長組ではドラマチックな話の展開や言葉の面白さ、登場人物への共感、感受性を育むもの等、様々な絵本を読み聞かせている。絵本は読み手を通して言葉の楽しさを味わい、文字への興味関心へとつながるが、語彙力や読解力は耳から聞いて入ってくる言葉から育つといわれているように、幼児期においては、信頼できる読み手との関わりを大切にしたい読み聞かせの時間となるように心がけている。

人形劇に関しては、布や羊毛で手作りした素朴な人形を静かに動かし、子どもの想像力に働きかけている。人形劇の題材は、それぞれの年齢に応じて決めており、年少組では各保育室でクラス担任の教員が行い、年中・年長組では“おはなしの部屋”で1クラス、または2クラス合同で行っている。また、年中・年長児の保護者には進級式、年少児の保護者には入園式で子どもと一緒に人形劇を見てもらう機会を設けている。

【点検・評価と今後の取組】

2012年度の学校評価において、絵本の選択に関して研究会で検討しているところであると記載した。その後、各学年で読み聞かせを行っている絵本を出し合い精査し、2015年度の教育課程に各学年別に絵本の表を記載した。これによってこれまでクラス担任の教員に任されていた読み聞かせの絵本を明確にすることができた。

読み聞かせは主に降園前に行っているが、教員は絵本を読み聞かせる時間が確実に持てるよう帰りの時間に余裕を持って保育を進めることを常に意識している。

幼児期の読み聞かせの大切さが保護者にも理解され、ほとんどの家庭において読み聞かせをしていることが2012年度と今回のアンケート調査において確認できた。

人形劇は同じお話を繰り返し行うことにより、子どもが遊びの中で人形劇をまねたり、リズムカルな言葉を繰り返し楽しむ姿が見られる。また、自分でお話を作り人形劇をして遊ぶ姿も見られる。アンケート結果によると、2012年度では保護者の88.8%が人形劇について理解を示していたが、今回は97.9%とより多くの保護者が理解を示した結果となった。

今後も現状に満足せず、読み聞かせの絵本や人形劇の選択を常に見直し、更に充実したものになるようにしていく。

キ 絵本の貸し出し

【現状の説明】

現在、絵本の部屋には約4,000冊の絵本があり本園の誇れる蔵書である。絵本は園児だけではなく保護者にも貸し出しを行っている。年中・年長児は週1回、曜日を決めて貸し出しを行っており、その際貸し出しノートへの記入や本棚の整理等は、保護者に協力してもらっている。年少児には絵本を選ばせるのではなく、教員や保護者が選んだ絵本を読み聞かせすることを重視しているため、子どもに貸し出しは行わず保護者に絵本の貸し出しを利用してもらっている。絵本の貸し出しにより家庭でも様々な絵本に出会う機会を作り、読み聞かせの時間を大切にしてもらうことを「はぐくみ」やクラス懇談会で働きかけている。各保育室にも絵本を揃えており、昼食後に自由に絵本と触

れ合う機会を持てるようにしている。また、教員が読み聞かせした絵本を子どもが手に取って見ることができるようになっている。

【点検・評価と今後の取組】

教員の読み聞かせた絵本や友だちが借りた絵本に興味を示し、喜んで借りる姿や借りたい絵本を積極的に探す姿が見られ、子どもが絵本の貸し出しを楽しみにしていることがわかる。絵本を大切に扱うことを子どもに指導し、傷んだ時にはすぐに修理しているが、老朽化したものも多く、今年度は新たに500冊の絵本を購入し、更なる充実を目指している。家庭においても、読み聞かせの重要性を理解されていることが、今回のアンケート調査においても窺うことができた。

ク おやつ作り（年長）

【現状の説明】

年長児は教員と一緒に、全園児と教職員が頂くおやつを作り、食べる楽しみだけでなく作る喜びを経験する。クッキー作りでは型抜きは使わず、指先や手のひらを使って自分の作りたいと思う形がどうすれば作れるのか、考え工夫しながら取り組んでいる。作る材料、過程にも興味を持てるように教員は働きかけている。年少・年中児には食べる楽しみと共に、年長児の姿を教員が伝え、見せることでおやつ作りへの興味や関心、あこがれの気持ちを持つように働きかけている。おやつの日を通して、みんなで食べる楽しさ、作る喜び、作ってくれる人への感謝の気持ちを感じることでできる取組としている。

【点検・評価と今後の取組】

おやつ作りは年長児の取組としており、年少・年中児は年長児の姿を憧れの眼差しで見ており、年長組になっておやつ作りを経験することを楽しみにしている。そのことは年長組への進級時に子どもからおやつ作りがしたいと言う声が聞かれることから推察できる。アンケート調査においても「こいのぼり作りやおやつ作りについてその様子をお子さんから聞いたことがありますか。」との設問に対し、「聞いたことがある」の回答は81.5%であった。この結果からも子どもたちが年長児としての取組を家庭で伝えていることがわかる。

今後も年長児の取組のひとつとして、子どもたちが意欲的に取り組めるように働きかけていく。

ケ 手伝い（掃除・給食・手紙の配布）

【現状の説明】

掃除は年中・年長児が土曜日に行っている。自分の持ち物を整理整頓し、掃除をしてきれいになる心地よさを味わうことをねらいとしている。年中時においては、1学期は自分の道具類の入っている棚の中を整理整頓し、2学期には雑巾を使って自分の棚の拭き掃除をしている。はじめて雑巾をしぼる子もいるので、雑巾を洗う時には教員が一人ひとりの絞り方を把握できるように少人数ずつ行っている。使い終わった雑巾は洗濯バサミで止めて干すので、その様子を教員は把握し指導している。年長児は年中組での経験を経て、1学期から自分の棚を雑巾で拭き掃除をしているが、雑巾をしっかり絞れているかは確認している。2学期終業式には全クラスで保育室の大掃除を行い、新年を迎えている。年少児はこの大掃除の時に担任が絞った雑巾で、はじめて自分の棚や椅子の拭き掃除を行っている。

給食の手伝いは年長児が行っている。子どもの手伝いをしたいという気持ちを大事にし、みんなのために仕事をする喜びを味わうことをねらいとしている。エプロンを着て、友だちの給食とお茶を入れたコップをお盆で運んでいる。最初は給食をのせたお盆をまっすぐ持って運ぶことを意識させている。コップには子どもがやかんでお茶を注いでいる。やかんをはじめて扱う子もいるので子どもの扱いやすい小さなやかんにし、教員が子どもの状態に合わせて指導している。

掃除、給食の手伝いにおいては、園での取組を保護者に伝え、家庭でも家族の一員として手伝いをすることの大切さ理解してもらえるよう働きかけている。

2012 年度学校評価を受けて年中組で他にできる取組を検討し、これまで年長組で行っていたグループの友だちへ手紙を配布する手伝いを行うこととした。この手伝いはグループの中で順番に行い、グループの友だちの数を把握し、手紙を届けている。

【点検・評価と今後の取組】

掃除は積み重ねることで、雑巾をしっかりとしぼれるようになっていく。

2 学期終業式に行う大掃除の経験から 3 学期には年中・年長児ともに自分の棚だけでなく、椅子や机等を自分で見つけて掃除をする姿がある。園での掃除の経験から、家庭でも進んで掃除をするようになったと言う保護者の声を聞いている。

給食の手伝いにおいても家庭で園と同じように配膳を手伝う姿があると保護者から聞いており、園での取組が家庭での生活につながっていることがわかる。

年中組での手紙を配布する手伝いについては、積み重ねることで配布する数の理解につながっていることが子どもの姿からわかる。

今後も園生活の中で取り組める手伝いを模索していく。

④ 戸外での一斉保育において

ア 集団遊び

【現状の説明】

集団遊びはクラス全員で楽しむ遊びの経験として取り入れ、遊びの楽しさを共有することで友だちとの一体感を生み、ルールを守ることの大切さを学べるようにしている。集団遊びの場では自分の思い通りにならないことも多く、一緒に遊ぶためにはどうしたらいいのかを考える機会となっている。自己主張しながらも友だちの意見を受け入れたり、自分の気持ちに折り合いを付けることを経験していくことができるように、教員は楽しさの中にも個々の子どもに合わせた関わりとクラス集団作りを意識した指導を行っている。

集団遊びは、子どもの成長段階に合わせたものを、各学年で取り入れる時期を決めている。年少組では輪になって歌を歌いながら簡単なルールで楽しめるものを取り入れ、年中組では遊びの中にじゃんけんのルールを取り入れ楽しめるようにしている。年長組では体力も備わり、より複雑なルールの遊びに取り組む姿が見られ、2 学期後半から取り組むドッジボールでは、繰り返し経験することで子どもたちだけで長い時間遊んでいる。

【点検・評価と今後の取組】

年長児においては、子ども同士で遊びを進めていく中で、自分で考えて行動し、友だちとやりとりしながら遊びを進める姿が見られる。年中児は教員がリードして遊ぶ中で経験を積み重ね、やが

て子ども同士でも遊びが進められるようになる。年少児においては教員と一緒に集団遊びを行い、楽しい経験を積み重ねることで子ども同士のつながりが確かなものになっている。集団遊びの時間の確保については、週の時間割に組み込まれているものの、その効果についての理解度と実践度の低さが露出された。よって今後の課題とする。

イ 体育的な遊び

【現状の説明】

子どもたちは体を動かす楽しさや心地よさを、集団遊びの経験やリズム運動の積み重ねから感じ、体の発達と共に様々な体育的な遊びに意欲的に取り組むようになる。滑り台やジャングルジム、丸木橋などの固定遊具では全身を使ってバランス感覚を養うと共に、遊具の正しい使い方を知り、安全に遊べるように指導している。また、戸外遊びに適した10月は運動月間として毎日「運動会ごっこ」と称し積極的に体育的な遊びに取り組んでいる。取組は園全体や各学年で検討し、子どもの発達にふさわしいものを選んでいく。運動面として力を入れて取り組むものとして、かけっこ、リレー、玉入れ、つなひき等運動会の定番ともいえる競技、精神面の育ちとしてはルールを理解して友だちと一緒に力を合わせて取り組む喜びやあきらめずに最後までやり抜く力を身に付けられるようにしている。縄跳びや大縄跳びはリズム運動時に経験を積み重ねられるようにしている。

【点検・評価と今後の取組】

2012年度の学校評価において固定遊具に関しては、興味を示さない子もいるので、興味を持たせる働きかけや取組について研究会で検討するとしている。園庭や裏山などへの散策では自然に触れるだけでなく固定遊具を意識的に取り入れ、体を動かす楽しさや心地よさをクラスのみんなで経験する機会を増やすようにした。また、運動月間では年少児の場合、はじめての取組に不安を抱く子もいるが繰り返し体験することで体を動かす心地よさや楽しさを感じられるようにしている。

運動月間に関しては、毎日の「運動会ごっこ」を楽しみにしている子どもの様子から、子どもの発達に即した楽しい取組になっていることがわかる。

今後も現状に満足せず、体育的な遊びや「運動会ごっこ」の取り組む内容について常に検討し、子どもの発達に即したものになっているか確認していく。

ウ プール遊び

【現状の説明】

本園のプールは屋外に設置されたものであるため、プール遊びの実施期間は気温と水温を確認しながら、夏の暑い時期となる6月中旬から9月中旬までとしている。プール内では玩具を使用せず、水に触れ慣れ親しみながら、水の中で体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるように指導している。泳げるようになることを目的にはしていないが、プール内で歌に合わせて体を動かしたり、水を掛け合い一緒に遊ぶ中で、子ども自らがやってみたいと思える経験が積み重ねられるように考えている。

教員はプールサイドやプール内での安全には十分注意を払い、水位も学年に応じて調節している。子どもにはプールでの決まりをしっかりと伝え守れるよう指導している。子どもの健康状態についてはプールカードを作成し、保護者との連絡を取ることで把握している。プールに入れない子はク

ラス担任外の教員の下、遊びを保障している。

また、水着に着替えることは衣服の着脱、たたみ方、持ち物の整理整頓の仕方を身につける機会と考え、身の回りのことを自分でできるよう指導している。

【点検・評価と今後の取組】

今年度のプール遊びについては、7月は雨の日が多く、9月に入ってからにはプール遊びの目安としている気温、水温に達してはいても暑く感じる日が少なかった。そのためプールに入る時間を短めにしたり、時間を遅らせる等、無理せずプール遊びが楽しいものになるよう対応した。今回のアンケート調査において、「お子さんはプール遊びを楽しんでいると思いますか」の設問に対し、「楽しんでいたと思う」との回答は98%であり、ほとんどの子どもがプール遊びは楽しいと感じていることがわかる。

9月中旬までプール遊びを実施することで、夏休み中に家庭での水遊びが相まって、プールで活発な姿を確認することができているので、今後も実施予定とする。

エ 四季を感じる取組

【現状の説明】

(ア) 散策

本園は起伏のある裏山を含め、たくさんの木々に囲まれた恵まれた自然環境にある。この自然環境を保育に生かすために園内散策では、身近な生き物や草花、樹木を観察し、発見の喜びを共感し合えるよう働きかけている。一年を通して散策することで、花が咲き・実がなる様子や葉が紅葉していく様子等、季節の変化を子どもが自ら感じるように働きかけている。また、雨や風、空や雲の様子等にも目を向け、耳を傾けることで興味や関心を持てるようにしている。散策にあたっては身近な自然に触れ合うことで子どもが五感を通して感じることを大切にしている。そのため、教員自身も感性を磨くことを常に意識している。園内の実のなる木については、主に年長児が収穫する体験をし、皆で分け合っていたいでいる。収穫物をいただく体験から自然の恵みや成り立ちにも興味を持てるよう働きかけている。

(イ) 野菜の栽培

年長児の活動として、フルーツトマト・さつまいもを育てている。水やりや雑草抜きの世話をしながら育つ過程を観察し、収穫の時期を迎える。年少・年中児には、教員が年長児の活動を伝え、育っていく過程を見に行くことで興味や関心を持てるようにしている。収穫物は年少・年中児にも分け合い、共に食べる喜びを感じさせている。

さつまいもはここ数年不作が続いたため、農作物経験者の卒園生の御祖父様に畑の土を耕すところから指導していただき、年長児に経験させた。秋には年長児が掘り出し、園庭で野焼き芋にしてみんなで分け合って食べることができた。

(ウ) チューリップの球根植え

毎年秋にチューリップの球根を子どもが1つずつ自分で植えている。芽や葉が育つ姿、つぼみがついて花が咲く姿を、間近で見ることで興味を持ちながら春に花が咲くのを楽しみにしている。花が咲き終わると年長児が、球根の掘り出しと花壇の雑草抜きをし、さつまいもを植える準備を手伝う。他にも保育室ではヒヤシンスの水栽培をし、植物の生育過程に興味や関心を持たせるようにしてい

る。

【点検・評価と今後の取組】

散策においては、園内の草花や樹木について、教員同士が理解を得られるように季節の花・野草・ハーブ・実のなる木・樹木に分けた一覧表と分布図を作成し、知識を深められるようにしている。

野菜の栽培においては、年長児は野菜を育てることで花の咲き方、実のなり方等に興味を持ち、水や草抜きを楽しみながら収穫を楽しみに待つことができた。さつま芋の収穫では卒園生の御祖父様のご指導のお蔭で例年よりも多く収穫することができ、子どもたちは楽しんでお芋掘りをすることができた。今年はお芋の茎を子どもにちぎらせ、担任が調理し食べられることを知らせ、お芋への関心を深めることができた。2012年度の学校評価において他にも栽培できるものはないか検討することとあったが、再度検討を重ねた結果、現時点では新しい作物を育てることは保留としている。

チューリップの球根植えにおいては、年長児は花が咲き終わった後の球根を掘り出す経験を通して、球根は再度花が咲くことを知り、関心を寄せていた。子どもが戸外遊びや散歩時に育つ様子を見る姿から、花が咲くのを楽しみにし、興味や関心を持っていることがわかる。また、子どもたちの話から家庭でも植えたということを知り、植物を育てたい気持ちが育っていることが感じられる。ヒヤシンスは毎日生育過程を間近で見ることによって、より関心を持ち楽しむことができた。

アンケート調査において「四季折々の草花や実のなる木の変化を子どもが実際に目にすることを大切にしていますが、お子さんからその様子を聞いたことがありますか」との設問に対し、「聞いたことがある」との回答が2012年度は97.4%であったが、今年度は99.5%という結果であった。特に年長児保護者の回答が2012年度は68.8%だったが、今年度は83.9%と大きく上回っている。このことから子どもが園で見つけたり、気づいたり、感じたことを家庭で伝えていることがわかる。今後も自然環境に親しめるよう、四季を感じる取組を積み重ねていく。

オ 小鳥・かも・うさぎ当番

【現状の説明】

年長児の仕事として経験させている当番活動である。餌を作り、小動物と身近に触れ合い親しみを持つことで、もの言わぬ生き物への扱いや命の大切さを感じることをねらいとしている。1グループ（5～6名）が当番でかもの餌を用意し、小鳥小屋に入って小鳥やうさぎ、かめ、金魚に餌を与えている。かもの餌作りは、野菜を手で細かくちぎることから始め、時期を見て小型包丁を使って細かく切ることを経験している。保育室で餌を用意するところは担任教員が関わり、小屋で小動物に餌をあげた後に、小動物と触れ合う時間は担任外の教員が関わっている。担任教員は当番活動の様子を担任外の教員から聞き把握できるようにしている。また、その日の出来事を当番の子どもからクラス全体に報告する場を持つようにしている。2月に行う当番の引継ぎでは、年長児から年中児に当番を楽しみにできるように伝えている。年長児は伝える内容をクラスみんなで考え、言葉で伝えることを大切にしている。

2004（平成16）年の鳥インフルエンザ問題以降、小鳥小屋の掃除は子どもにはさせず、小屋に入る時は教員も子どもも長靴に履き替えるようにしている。

【点検・評価と今後の取組】

初めて小屋に入る時は小動物の様子がわからなくて様子を伺っている子どもも、小動物に身近に触れることで親しみが持てるようになってきている。当番の子どもがその日の出来事をクラスで報告し、気付いたことや疑問に思ったこと等を伝える言葉から触れ合いを楽しみ、よく観察していることがわかる。アンケート調査においても、「小鳥・かも・うさぎ当番の体験をお子さんから聞いたことがありますか。」という設問に対して「聞いたことがある。」は 93.3%であった。この結果から子どもが当番活動を楽しみ、そのことを保護者に伝えていることがわかる。年中児と年長児の当番の引継ぎにおいては、年長児が伝える当番の仕事内容を年中児が興味を持って聞き入る様子から、楽しみにしていることが感じられる。

今後も年長児の大切な仕事として、当番活動に取り組んでいく。

(3) 安全教育について

【現状の説明】

通園時及び園生活全般において、自ら危険を予測し、回避できる力が育つことを目的にした指導を行っている。

① 通園において

本園は駅に近いという立地条件であることから、阪急電車を利用した電車地区と徒歩地区に分けて集団で通園を行っている。本園では近年の保護者のニーズの変化と負担を軽減するため、2007年度より通園補助員を導入している。また、社会状況を踏まえて2012年度には通園時における緊急対応マニュアルを作成した。不審者・地震・火災の3つに分類したものを、教員、通園補助員に配付し安全管理に努めている。通園時の子どもの状態等については、全教職員間で報告し、子どもが安全に通園できるようにしている。子ども自身が意識を持って安全に通園できるよう、交通ルールや公共マナーの指導については習慣として身に付けることが大切であると考え、その都度指導し、各学期の初めには、地区ごとに通園時の注意点を確認している。

通園だよりを年6回発行し、通園における子どもの様子や変化、幼稚園と家庭が協力し指導していきたいこと等を具体的に知らせることで、保護者の理解を得られるよう努めている。

② 防災、防犯、避難訓練において

各保育室内での安全な場所やピアノの位置を確認し、防災ずきん・笛・非常時用リュックを揃え、非常時に園児を保護者へ引き渡す際の「引き渡しカード」を作成している。

避難訓練の際には、警戒音・非常ベル・笛が聞こえたら、子どもは活動を止め黙って教員の方を見て指示に従い行動できるよう指導している。本園では、普段からマイクや笛を意図的に使用していないため、子どもは音に敏感に反応する。そのため訓練では、不安を与えないよう注意を払いつつ、緊張感を持って取り組ませるようにしている。

全園児での避難訓練は年6回（1学期は防犯訓練、2学期は防災（火災）訓練、3学期は防災（地震）訓練）行っている。毎回同じ訓練の繰り返しではなく、あらゆる場面設定をして常に新たな訓練内容にし、様々な事象に対応できるようにしている。2013年度には、不審者の侵入、地震・火災発生時に保育室・園庭・裏山・プール・リズム運動時・集会時・園外保育時・預かり保育時・通園時・2歳児親子教室で活動していた場合の担任教員の行動・担任教員の子どもへの対応・指示、

園長、補助教員、事務員、施設設備保全作業員の行動について危機管理マニュアルを作成し、これを参考にそれぞれの場面を想定して行っている。

場面設定では、保育室内での活動中に不審者が侵入した場合、園庭・裏山・プール等での活動中に不審者が侵入した場合、火災が発生し園庭へ避難する場合、地震が発生し中高グラウンドへ避難する場合、全クラスが室内または室外での活動中に地震が発生した場合等がある。今年度は11月に学園全体で実施された関大防災Dayに全園児で参加し、関西大学会館前に避難することを試みた。

避難訓練後には必ず反省会を行い問題点・改善点を出し、次回の訓練に生かすようにしている。

2012年度には、クラス・学年ごとに取り組んでいる安全教育について、生活・災害・交通に分類した一覧表を作成し確認を行い、避難訓練だけでなく日々の保育の中で安全教育を行っている。

2014年度に改修工事を行い、年少組の保育室の鍵を開閉しやすくし、プールに避難用扉を新たに設置した。

防犯面においては、門を施錠しインターホンによって出入りを把握している。保護者には「入構許可証」を携帯してもらい、行事の際の来園者にはりボンを配付する等、不審者対策を行っている。幼稚園に出入りする際には保護者自身も防犯面での対応を意識するよう働きかけている。また、教職員は常に危機管理の意識を持つように努め、園の関係者以外の者が侵入していないか気を配り安全確認を行うようにしている。更に担任は園庭・裏山・プール等、保育室外で活動する際はトランシーバーと警戒音の携帯用ボタンを携帯している。

【点検・評価と今後の取組】

① 通園において

各通園地区の状況が異なるため、担当の教員が注意すべき事項が若干異なる。今年度は通園補助員の意見を職員会議で取り上げ、教員全員が共通理解できるようにした。

今年度は人身事故による阪急電車の運休が登園時間に重なり各駅のホームで待機するという事態に見舞われたが、マニュアルに沿うだけでなくこれまでの話し合いを踏まえ各地区の状況に見合った判断をし、通園補助員や保護者の協力を得て子どもの安全を確保し落ち着いて行動することができた。その後、教員全員で各地区のその時の対応について確認し合うことで緊急時の対応について確認でき理解を深めることができた。

アンケート調査において「交通ルールや公共のマナーについて子どもに指導できていると思いますか」の設問に対し、「そう思う」の回答が2012年度は38.3%だったが、今年度は73.6%との結果であった。これにより子どもの身に付くように毎日積み重ね指導していることが保護者に伝わっていることがわかる。交通ルール・公共マナーの指導については、園と家庭で一貫して指導できるよう、保護者にも集合場所等の公共の場でのマナーについて意識を高く持ってもらえるよう働きかけている。アンケート調査において「ご家庭において、お子さんが交通ルールや公共のマナーを守れるように大人が意識して交通ルールを守っていますか」の設問に対し、「そう思う」の回答が2012年度は54.3%であったが今年度は72.2%となっており、保護者の意識が高くなっていることがわかる。今後も保護者への働きかけを継続し幼稚園と家庭が一緒になって安全な通園ができるようにと考えている。

② 防災、防犯、避難訓練において

子どもたちは避難訓練の回数を重ねることで非常時の行動について意識し、どのような場面でも教員の指示に従って行動できるようになっている。今年度は初めて全園児で関大防災Dayに参加し、園外に避難する際の経路の確認や突発事項での子どもの反応を把握することができた。訓練後に毎行う反省会では、優先順位の確認や子どもの安全をいかに守るか共通認識を持つことができた。

クラス・学年ごとに取り組んでいる安全教育の一覧表を活用することで、普段の保育の中で子どもに安全についての働きかけをより意識して取り組むようになった。

また、2013年度に作成した危機管理マニュアルについては、教員自身が様々な場面を具体的に想定することができるものとなった。避難訓練後には見直しながら活用してきたが、今年度、防災・減災、危機管理で著名な社会安全学部の河田恵昭教授による講習会を受け、課題と改善点、確認事項に分けて見直しを行い教員全員で検討しているところである。

アンケート調査において「防災、防犯の避難訓練を行っていることをお子さんから聞いたことがありますか」の設問に対し、「聞いたことがある」の回答が2012年度は77.7%であったが、今年度は91.7%となっており、園での取組が子どもを介して保護者にも伝わっていることがわかる。

更に、アンケート調査において「家庭では非常時にどうすればいいかお子さんに伝えてありますか」の設問に対し、「伝えていない」の回答が2012年度は37.8%だったのに対し、今年度は19.5%に減少しており家庭での防災、防犯への意識が高まっていることが窺える。いつ起こるかかわからない災害や非常時に備え、子どもが自分で自分の身を守れる力を身につけられるよう、園だけでなく家庭でも意識してもらうために今後も働きかけていく。

併せて、本学園は学生、教職員、近隣住民を含め、毎年約1万人を対象として実施する地震避難訓練、非常食や炊き出しの体験や試食、煙体験、講演会などの防災イベント（「関大防災Day」）を開催している。「関大防災Day」当日、降園時間との兼ね合いの問題はあるが、保護者に対して関大防災Dayへの参加・体験を呼びかけることで危機意識の醸成に役立てられないかを検討している。

防犯面においては、これまでの働きかけにより行事の際には保護者の意識が年々高くなっていることが感じられるが、普段の来園時やプール保育（夏休み中）の送迎時等には入構許可証を携帯していない保護者の姿が見られる。その都度確認を行い、口頭で入構許可証の携帯を促してきたが、今後入構許可証の携帯を徹底するため、携帯していない時には記名してもらい許可証を貸し出す等の対策を講じることを検討している。また、クラス懇談会で日頃から子どもの安全のために入構許可証を携帯してもらうよう働きかけることを職員会議において確認した。

（４） 園児募集について

【現状の報告】

園児募集については、例年入園前年の7月からホームページ上で「入園概要について」と掲出し、8月末に朝日新聞と読売新聞、リビング吹田（タウン誌）に折込チラシを入れて告知している。また、入園希望者対象に「園内参観」と「遊びませんか？（在園児と園庭で遊ぶ）」を可能な限り実施し、2歳児親子教室参加者には園庭解放を行い、今年度より2歳児親子教室希望者対象の園庭解

放を行った。9月初めに入園説明会（園内施設参観）を開き、翌週に3日間の園内参観日を設けており、参観時には在園児の保護者数名の協力を得て、参加者の質問に対応してもらっている。

幼稚園選びの低年齢化がうかがえることに着目し、今年は2歳未満児とその保護者を対象として「おいで、おいで」を開催した。

2016度の新人園児数に関しては、2015年10月1日の受付日に定員を満たし、2016年2月現在5名程の待機者がある。

【点検・評価と今後の取組】

2013年度入園者を対象とした園児募集に際して、過去にない大幅な定員割れを起こしたため、これを機会にこれまでの園児募集活動を検証し効果的な活動を模索すると共に急遽この3年間、園児募集活動を自己点検してきた。

2012年度に初めて実施した翌年度入園希望者向けの「遊びませんか？」は好評を得、2013年度から開催日を2年連続で増やした。更に今年度より上限6名の枠を外し、希望者を全員受け入れることにして対応し、入園の動機づけとなっている。

今年度2回開催した「おいで、おいで」には18組の参加があった。今後は子育て支援策としても、年間予定に組み入れていく。

今年度の「2歳児親子教室」の説明会参加人数は、昨年度の人数を下回っていたため、定員を30名として募集したところ43名の応募があり、上限を45名に設定した。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

〈自己点検・評価の適切性〉

2009 年度から始まった関西大学幼稚園の学校評価も 3 巡目に入り、今年度は教育の基本方針、教育内容、安全教育、園児募集について行っている。過去 2 回よりもいずれも高い評価を得ており、保護者が本園の教育のあり方を理解し、評価していることがうかがえる。1 回目の評価より 2 回目が、2 回目より 3 回目がより高い評価であることが当然のように思われるかもしれないが、調査対象者が異なる中で、常に前回より高い評価を得ることは並大抵ではない。本園の教員がそれを成し遂げているのは、各人が教育の持つ意味をよく理解し、実践しているからにほかならない。

〈重点的な取組の適切性〉

本年度の自己点検・評価は、教育の最も基本となる「教育方針」とこれを具現化する「教育内容」及び子どもの命に関わる「安全教育」である。現行の教育基本法は、幼児期の教育を「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」と規定している。人がどのように生きるかの基本となるものが幼児期から培われていくと考えれば、「教育方針」は人の一生に影響を与えるものであり、これの持つ意味は大変重い。

本園の「教育方針」は「自主性の陶冶」、「協同性の涵養」、「生きる力の育成」である。本委員会は今回の評価にあたって、それぞれの持つ意味を検討した。自主性、協同性、生きる力、いずれも抽象的な意味合いは理解できても、それを具体的に誰もがわかるような平易な言葉で言い換えることは難しい。抽象的な言葉は多くの人が無となくこうであろうと理解し、それで特に不都合もない便利な言葉である。しかし、学校評価報告書を読むと、抽象的に見えるこの教育方針を本園では全教員が共通に理解しているのはもちろんのこと、保護者アンケートにおいて、学年が上がるにつれて A 評価の割合が高くなっていることから、日々の教育の中で、教員が保護者に教育方針を十分理解してもらえるよう努力を続けていることがよくわかる。また、今回の報告書では「教育方針」と「教育内容」との関連が一目でわかるように図示されており、とても理解しやすい。

教育方針は「教育内容」の中で形あるものとして実践されている。その内容は大きく自由遊びと一斉保育に分けられており、それぞれの遊びが子どもの成長に合わせて展開されている。子どもの成長はみな一様ではなく、速かったりゆるやかであったり、追いついたり追い越したりしながら、一人一人がその子らしく変化していく。教員はそれぞれの個性を十分尊重しながら、時間をかけて成長を見守り手助けしており、本園が大切にしている“待つ”という姿勢が子どもの豊かな成長につながっている。

また、様々な教育的営為は子どもの安全を保証する中で成立する。どんなに素晴らしい教育内容であっても、子どもの安全が脅かされるようでは意味をなさないのである。「安全教育」は教職員が子どもの安全を守るだけでなく、子ども自身が自己の安全を守るこ

との大切さを教えてくれている。しかし、アンケート調査の結果をみると、家庭で同じように教えることはなかなか難しいようであり、ここでも幼稚園教育がいかに重要であるかが見てとれる。

〈自己点検の結果を踏まえた改善方策の適切性〉

本年度の自己点検・評価については、前回との比較も行いながら適切に進められている。先述のように、教育の基本方針は外から最も見えにくいものであり、すべての人に同じように理解を得ることは難しい。しかし、特別ではない日常の、日々の教育的営みの中に、生きていく力を育て、人と一緒に物事を成し遂げる力を養い、その一方で、人とは異なる一個の自分というものをしっかりと確立するという、本園の教育方針が表れているのである。そして、これらの方針を「教育内容」の中で形あるものとして、今後も工夫を重ねながら実践していこうという姿勢が好ましい。

本園の教育方針が子どもの成長にどのような影響を与えているかはすぐにはわからないかもしれない。しかし、年少から年長までの幼稚園の時期だけでの変化ではわからない多くの成長が、多種多様にあると思われる。それは短い時間の中でははっきりと目に見えないけれども、そこに確かにあり、子どもの中で生きていくことを目指して本園の教育は行われている。成果を追求する時代にあって、それとは真逆に見えるかもしれない本園で過ごした日々は、その時々遊びの中の変化だけでなく、小学校以降の様々な生活や学びの場面において、生きる力となって現れるであろう。入園児の中には本園卒園の保護者がおられることに加えて、在園児・卒園児の弟妹の多くが本園に入園するのは、今この時の成長や変化だけが魅力なのではなく、子どもの将来への成長や変化をもたらす本園の教育のあり方に共感しておられるからであろう。

〈学校運営の改善に向けた取組の適切性〉

本園では、2013年に一旦入園児の数がそれまでより低下したが、「遊びませんか?」、「おいで、おいで」、「2歳児親子教室」の実施等、まだ就園年齢に達しない幼児を対象にした様々な活動を通して、短い期間に再び入園希望者が定員を上回るに至っている。園児募集に与える少子化の影響は今後も長きにわたって続くと思われ、時には入園児数が定員を下回ることもあるかもしれない。しかし、創立以来これまであまたの教職員が築き守ってきた65年間の本園の教育方針を、これからもぶれることなく続けていくという覚悟と、現状に慢心することなくよいものを取り入れて、時代や社会の要請に応えていこうという車の両輪のような姿勢がある限り、本園は発展し続けると本委員会は確信している。

6 「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書

関西大学幼稚園
園長 石倉千世

本年3月18日に64名の園児が卒園式を迎えた。この学年は2012年10月の園児募集において定員を割り、2013年4月の時点では50名でスタートした。その後、転勤等保護者の都合による転入园や、他園になじめず、本園の教育方針に共感して転入してくる園児があり、最終的には64名で卒園することとなった。本園は通園方法や保育時間、預かり保育等、保護者にとっては、「便利でない」幼稚園」という印象を与えていることであろう。しかし、今回のことから、各々の事情はともかく、保護者は利便性のみで園を選択されているのではないことを実感することができた。教育方針はもとより教育内容について、具体的にその重要性と必要性を保護者に伝える方法には工夫と努力を要するが、保育現場においてそれらの実現に向けて日々取り組んでいる。そのことが、保護者に伝わり実証されているようで嬉しく思う。

上記のことから、今年度の学校評価項目である「教育方針」「教育内容」「安全教育」に関して、良いタイミングで点検・評価ができた。2巡目にあたる2012年度の学校評価報告書によって明らかになった課題や今後の取組に対し、速やかに改善策を講じ実践してきた。そして3巡目にあたる今年度も、すべての教育内容を細かく、丁寧に点検・評価を行うことで教育の質の向上へと着実に繋がっていると思っている。

さて、普段の園生活における子どもの活動から、保護者に教育方針と教育内容の関連性を見つけ出し理解してもらうことには苦慮するところである。3つの基本方針（自主性の陶冶、共同性の涵養、生きる力の育成）が、すべての教育内容に通じるものであることを視覚的に理解してもらう方法として、一目で確認できるように図式化した（図1参照）。まず全教員の共通理解に役立てたうえで、保護者にも分かりやすく示し、更には、一人一人の子どもの育ちぶりを図に重ね合わせ、確かな育ちの実現に役立てたい。

園生活においては、一日の流れを基本として一週間の流れを作っている。その一週間の流れを基に、ひと月、更に一年の流れを作ることが重要であると考えている。なぜなら、めまぐるしく変化する生活ではなく、日々の生活体験を同じように繰り返すことにより、子どもの成長が確かなものになると考えるからである。本園では1年を3学期に分けて構成しているが、年少の1学期から3学期を終えた後、リセットして年中の1学期を迎えるのではなく、年少から年長までの1学期から9学期までを一連の流れとしてとらえている。その流れで作られたそれぞれの学期を、らせん階段に例えて保護者に話すことがある。周期的に繰り返し行われることで子どもの精神が安定し、子ども自身が見通しをもった園生活を過ごせるようにしている。一日の体験のすべてが、子どもの自主的、自発的な活動につながり、やがて自信となるような関わり方や生活の過ごし方が重要であると考えている。

目新しさや変化が好まれる時代の中で、これらのことを保護者に伝え、理解を得ながら幼児教育を実践することに、年々難しさを感じるころではある。しかし、共感し理解してくださる保護者がいる限り、本園の教育方針に基づき、これからも邁進していきたい。

2015年度 関西大学幼稚園 実施対象者別アンケート項目結果比較一覧表 【設問数】年長児保護者：20問、年中児保護者：17問、年少児保護者：17問、教員：26問

保護者アンケート		教員アンケート		A	B	C	D	無記入
1. 保育の基本方針である「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」はよくご存じだと思いますが、ご理解いただけますか。	61.0%	37.9%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
2. 自主性、創造性、社会性などを育むために自由遊びの時間を重視しています。はぐくみ、おたより、クラス懇談会などを通してそれが感じられますか。	77.9%	21.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
3. 入園してからご家庭においてお子さんの遊びに変化が見られますか。	58.5%	35.4%	5.6%	0.5%	0.0%	5.6%	0.5%	0.0%
4. お子さんはボール遊びを楽しんでいると思いますか。	86.1%	11.9%	1.5%	0.5%	0.0%	1.5%	0.5%	0.0%
5. 園では読み聞かせの時間を大事にしています。ご家庭ではお子さんに読み聞かせをしていますか。	52.3%	46.2%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%
6. 楽しく戸外遊びをしている様子がお子さんを通して感じられますか。	77.8%	18.6%	2.6%	1.0%	0.0%	2.6%	1.0%	0.0%
7. 四季折々の草花や実のなる木の変化を子どもが実際に目にするのを大切にしていますが、お子さんからその様子を聞いたことがありますか。	75.4%	24.1%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
8. 園で歌っている歌をお子さんが口ずさんでいるのを聞いたことがありますか。	87.7%	10.3%	1.5%	0.0%	0.5%	1.5%	0.0%	0.5%
9. 人形劇は子どもたちの感性や想像力を育てるための取り組みのひとつであることはよくご存じだと思いますが、ご理解いただけますか。	76.4%	21.5%	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%
10. むらし絵は、色の世界を楽しむ経験であることはよくご存じだと思いますが、ご理解いただけますか。	66.8%	29.4%	3.2%	0.5%	0.0%	3.2%	0.5%	0.0%
11. お子さんはリズム運動を楽しんでいると思いますか。	84.0%	15.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
12. 普段の生活で不足している運動量を補うためにリズム運動に取り組んでいることはよくご存じだと思いますが、はぐくみやお子さんの姿を通してそれが感じられますか。	61.0%	35.8%	2.7%	0.0%	0.5%	2.7%	0.0%	0.5%
1. 保育の基本方針である「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」を意識して保育を行っていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2. 子どもの発達段階に合わせて、興味・関心を意識した環境設定を心がけていますか。	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3. 自由遊びの時間を重視していることを保護者に伝えていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4. 遊びの中で子どもが友だちと関わり、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように働きかけていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 固定遊具(山登り、丸木橋、タイヤ、鉄棒、ジャングリズム、滑り台、うんてい)に興味を持ち、楽しくかつ安全に遊べるように指導していますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8. プール遊びでは、水に親しみ、楽しめるように子どもの発達段階に合わせた指導をしていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
14. 絵本の読み聞かせの時間を大事にしてほしいことを保護者に伝えていきますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6. 集団遊びでは社会性や協調性、仲間意識が育つように指導していますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7. 四季折々の草花や実のなる木の変化を子どもが感じられるように働きかけていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11. 歌はピアノや教師や友だちの声に合わせて歌うことを意識して指導していますか。	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15. 人形劇では環境を整え、お話の世界に入り込めるように工夫し、感性や想像力を育めるように働きかけていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
16. 絵本や人形劇で話を聞く意欲や態度が育つように働きかけていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12. むらし絵は色の世界を楽しむ経験であることを保護者に伝えていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9. リズム運動では、ひとつひとつの動きのポイントを押さえて指導して	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

保護者アンケート	教員用アンケート	A	B	C	D	無記入	A	B	C	D	無記入
	10. 不足している運動量を補うためにリズム運動に取り組んでいることを保護者に伝えていきますか。						100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	13. 制作活動において、その過程を大切に、子どもたちそれぞれの表現を受け止めるように心がけていきますか。						100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13. 交通ルールや公共のマナーについて子どもに指導できていると思いますか。		73.6%	25.4%	1.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
14. ご家庭において、お子さんが交通ルールや公共のマナーを守るように大人が意識して交通ルールを守っていますか。		72.2%	27.3%	0.5%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15. 通園では異年齢のペアで手をつなぐことで、思いやる気持ちや安心と憧れの気持ちなどが育まれていると感じられますか。		75.9%	22.1%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
16. 防災、防犯の避難訓練を行っていることをお子さんから聞いたことがありますか。		73.8%	17.9%	5.6%	2.6%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
17. 家庭では非常時にどうすればいいかお子さんに伝えていきますか。		31.3%	49.2%	16.4%	3.1%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18. こいのぼり作りやおやつ作りについてその様子をお子さんから聞いたことがありますか。(年長児保護者のみ)		81.5%	18.5%	0.0%	0.0%	0.0%					
19. なわとび作りについてお子さんから様子を聞いたことがありますか。(年長組保護者のみ)		80.6%	12.9%	4.8%	1.6%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20. 小鳥・かも・うさぎ当番の体験をお子さんから聞いたことがありますか。(年長組保護者のみ)		78.0%	15.3%	5.1%	1.7%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

2015年度 関西大学幼稚園 学年別保護者アンケート結果一覧表

設 問	設 問						無記入	A	B	C	D	無記入
	A	B	C	D	無記入							
1. 保育の基本方針である「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」はよくご存じだと思えますが、ご理解いただけますか。	全体	61.0%	37.9%	1.0%	0.0%	0.0%	50.7%	47.8%	1.4%	0.0%	0.0%	
							60.9%	39.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
							72.6%	25.8%	1.6%	0.0%	0.0%	
2. 自主性、創造性、社会性などを育むために自由遊びの時間を重視しています。はぐくみ、おたより、クラス懇談会などを通してそれが感じられますか。	全体	77.9%	21.5%	0.5%	0.0%	0.0%	75.4%	24.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
							78.1%	21.9%	0.0%	0.0%	0.0%	
							80.6%	17.7%	1.6%	0.0%	0.0%	
3. 入園してからご家庭においてお子さんの遊びに変化が見られますか。	全体	58.5%	35.4%	5.6%	0.5%	0.0%	59.4%	31.9%	8.7%	0.0%	0.0%	
							51.6%	45.3%	3.1%	0.0%	0.0%	
							64.5%	29.0%	4.8%	1.6%	0.0%	
4. お子さんはボール遊びを楽しんでいると思えますか。	全体	86.1%	11.9%	1.5%	0.5%	0.0%	86.8%	13.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
							87.9%	9.1%	3.0%	0.0%	0.0%	
							83.3%	13.3%	1.7%	1.7%	0.0%	
5. 園では読み聞かせの時間を大事にしています。ご家庭ではお子さんに読み聞かせをしていますか。	全体	52.3%	46.2%	1.5%	0.0%	0.0%	56.5%	40.6%	2.9%	0.0%	0.0%	
							56.1%	42.4%	1.5%	0.0%	0.0%	
							43.3%	56.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
6. 楽しく戸外遊びをしている様子がお子さんを通して感じられますか。	全体	77.8%	18.6%	2.6%	1.0%	0.0%	77.9%	20.6%	1.5%	0.0%	0.0%	
							75.8%	19.7%	3.0%	1.5%	0.0%	
							80.0%	15.0%	3.3%	1.7%	0.0%	
7. 四季折々の草花や実のなる木の変化を子どもが実際に目にすることを大切にしていますが、お子さんからその様子を聞いたことがありますか。	全体	75.4%	24.1%	0.5%	0.0%	0.0%	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
							64.1%	34.4%	1.6%	0.0%	0.0%	
							83.9%	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
8. 園で歌っている歌をお子さんが口ずさんでいるのを聞いたことがありますか。	全体	87.7%	10.3%	1.5%	0.0%	0.5%	94.2%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
							81.3%	12.5%	4.7%	0.0%	1.6%	
							87.1%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%	
9. 人形劇は子どもたちの感性や想像力を育てるための取り組みのひとつであることはよくご存じだと思いますが、ご理解いただいていますか。	全体	76.4%	21.5%	2.1%	0.0%	0.0%	68.1%	30.4%	1.4%	0.0%	0.0%	
							76.6%	20.3%	3.1%	0.0%	0.0%	
							85.5%	12.9%	1.6%	0.0%	0.0%	
10. ぬらし絵は、色の世界を楽しむ経験であることはよくご存じだと思いますが、ご理解いただいていますか。	全体	66.8%	29.4%	3.2%	0.5%	0.0%	73.9%	23.2%	2.9%	0.0%	0.0%	
							64.4%	32.2%	1.7%	1.7%	0.0%	
							61.0%	33.9%	5.1%	0.0%	0.0%	

設 問	設 問						無記入			
	A	B	C	D	無記入	A	B	C	D	無記入
11. お子さんはリズム運動を楽しんでいると思いますか。	全体	84.0%	15.5%	0.5%	0.0%	年少	88.4%	10.1%	1.4%	0.0%
						年中	84.7%	15.3%	0.0%	0.0%
						年長	78.0%	22.0%	0.0%	0.0%
12. 普段の生活で不足している運動量を補うためにリズム運動に取り組んでいることはよくご存じだと思いますが、はぐくみやお子さんの姿を通してそれが感じられますか。	全体	61.0%	35.8%	2.7%	0.0%	年少	62.3%	31.9%	4.3%	0.0%
						年中	64.4%	32.2%	3.4%	0.0%
						年長	55.9%	44.1%	0.0%	0.0%
13. 交通ルールや公共のマナーについて子どもに指導できていると思いますか。	全体	73.6%	25.4%	1.0%	0.0%	年少	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
						年中	68.2%	28.8%	3.0%	0.0%
						年長	78.0%	22.0%	0.0%	0.0%
14. ご家庭において、お子さんが交通ルールや公共のマナーを守るように大人が意識して交通ルールを守っていますか。	全体	72.2%	27.3%	0.5%	0.0%	年少	77.9%	22.1%	0.0%	0.0%
						年中	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%
						年長	75.0%	23.3%	1.7%	0.0%
15. 通園では異年齢のペアで手をつなぐことで、思いやる気持ちや安心と憧れの気持ちなどが育まれていると感じられますか。	全体	75.9%	22.1%	2.1%	0.0%	年少	78.3%	20.3%	1.4%	0.0%
						年中	71.9%	25.0%	3.1%	0.0%
						年長	77.4%	21.0%	1.6%	0.0%
16. 防災、防犯の避難訓練を行っていることをお子さんから聞いたことがありますか。	全体	73.8%	17.9%	5.6%	0.0%	年少	62.3%	20.3%	10.1%	7.2%
						年中	76.6%	17.2%	6.3%	0.0%
						年長	83.9%	16.1%	0.0%	0.0%
17. 家庭では非常時にどうすればいいかお子さんに伝えていきますか。	全体	31.3%	49.2%	16.4%	0.0%	年少	18.8%	53.6%	20.3%	7.2%
						年中	21.9%	59.4%	18.8%	0.0%
						年長	54.8%	33.9%	9.7%	1.6%
18. こいのぼり作りやおやつ作りについてその様子をお子さんから聞いたことがありますか。（年長児保護者のみ）	全体	81.5%	18.5%	0.0%	0.0%	年少				
						年中				
						年長	81.5%	18.5%	0.0%	0.0%
19. なわとび作りについてお子さんから様子を聞いたことがありますか。（年長組保護者のみ）	全体	80.6%	12.9%	4.8%	0.0%	年少				
						年中				
						年長	80.6%	12.9%	4.8%	1.6%
20. 小鳥・かも・うさぎ当番の体験をお子さんから聞いたことがありますか。（年長組保護者のみ）	全体	78.0%	15.3%	5.1%	0.0%	年少				
						年中				
						年長	78.0%	15.3%	5.1%	1.7%

2015年度 関西大学 幼稚園 保護者対象アンケート

1. 保育の基本方針である「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」はよくご存じだと思いますが、ご理解いただいていますか。

- A 理解している
- B まあまあ理解している
- C あまり理解していない
- D 理解していない

CまたはDと答えた方はその理由をお書きください。

()

2. 自主性、創造性、社会性などを育むために自由遊びの時間を重視しています。はぐくみ、おたより、クラス懇談会などを通してそれが感じられますか。

- A 感じられる
- B まあまあ感じられる
- C あまり感じられない
- D 感じられない

CまたはDと答えた方はその理由をお書きください。

()

3. 入園してからご家庭においてお子さんの遊びに変化が見られますか。

- A 見られる
- B まあまあ見られる
- C あまり見られない
- D 見られない

AまたはBと答えた方におききします。それはどのような変化ですか。

()

CまたはDと答えた方はその理由をお書きください。

()

4. お子さんはプール遊びを楽しんでいると思いますか。

- A 楽しんでいると思う
- B まあまあ楽しんでいると思う
- C あまり楽しんでいると思わない
- D 楽しんでいると思わない

CまたはDと答えた方はその理由をお書きください。

()

5. 園では読み聞かせの時間を大事にしています。ご家庭ではお子さんに読み聞かせをしていますか。

- A 毎日読み聞かせている
- B ときどき読み聞かせている
- C あまり読み聞かせていない
- D 読み聞かせていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

6. 楽しく戸外遊びをしている様子がお子さんを通して感じられますか。

- A 感じられる
- B まあまあ感じられる
- C あまり感じられない
- D 感じられない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

7. 四季折々の草花や実のなる木の変化を子どもが実際に目にすることを大切にしていますが、お子さんからその様子を聞いたことがありますか。

- A 聞いたことがある
- B ときどき聞いたことがある
- C あまり聞いたことがない
- D 聞いたことがない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

8. 園で歌っている歌をお子さんが口ずさんでいるのを聴いたことがありますか。

- A 聴いたことがある
- B まあまあ聴いたことがある
- C あまり聴いたことがない
- D 聴いたことがない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

9. 人形劇は子どもたちの感性や想像力を育てるための取り組みのひとつであることはよくご存じだと思いますが、ご理解いただいていますか。

- A 理解している
- B まあまあ理解している
- C あまり理解していない
- D 理解していない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

10. ぬらし絵は、色の世界を楽しむ経験であることはよくご存じだと思いますが、ご理解いただいていますか。

A 理解している

B まあまあ理解している

C あまり理解していない

D 理解していない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

11. お子さんはリズム運動を楽しんでいると思いますか。

A 楽しんでいると思う

B まあまあ楽しんでいると思う

C あまり楽しんでいると思う

D 楽しんでいると思う

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

12. 普段の生活で不足している運動量を補うためにリズム運動に取り組んでいることはよくご存じだと思いますが、はぐくみやお子さんの姿を通してそれが感じられますか。

A 感じられる

B まあまあ感じられる

C あまり感じられない

D 感じられない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

13. 交通ルールや公共のマナーについて子どもに指導できていると思いますか。

A できていると思う

B まあまあできていると思う

C あまりできていないと思う

D できていないと思う

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

14. ご家庭において、お子さんが交通ルールや公共のマナーを守れるように大人が意識して交通ルールを守っていますか。

- A 守っている
- B まあまあ守っている
- C あまり守っていない
- D 守っていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

15. 通園では異年齢のペアで手をつなぐことで、思いやる気持ちや安心と憧れの気持ちなどが育まれていると感じられますか。

- A 感じられる
- B まあまあ感じられる
- C あまり感じられない
- D 感じられない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

16. 防災、防犯の避難訓練を行っていることをお子さんから聞いたことがありますか。

- A 聞いたことがある
- B ときどき聞いたことがある
- C あまり聞いたことがない
- D 聞いたことがない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

17. 家庭では非常時にどうすればいいかお子さんに伝えていきますか。

- A 伝えている
- B まあまあ伝えている
- C あまり伝えていない
- D 伝えていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

18. こいのぼり作り、おやつ作りについてその様子をお子さんから聞いたことがありますか。(年長組保護者のみ)

- A 聞いたことがある
- B まあまあ聞いたことがある
- C あまり聞いたことがない
- D 聞いたことがない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

19. なわとび作りについてお子さんから様子を聞いたことがありますか。(年長組保護者のみ)

- A 聞いたことがある
- B まあまあ聞いたことがある
- C あまり聞いたことがない
- D 聞いたことがない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

20. 小鳥・かも・うさぎ当番の体験をお子さんから聞いたことがありますか。(年長組保護者のみ)

- A 聞いたことがある
- B ときどき聞いたことがある
- C あまり聞いたことがない
- D 聞いたことがない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

()

よろしければお名前をお書きください。
